



一人一人が安心して自分のよさを発揮できる学校

武蔵野小だより



令和2年10月1日発行

むさまるから広がる「やさしい気持ち」

秋に移動となった運動会に向け、各学年の練習が始まりました。子どもたちは、意欲満々の様子です。

さて、右は、武蔵野小学校のキャラクター「むさまる」の顔です。ほほのハートマークは、みんなの願い「やさしい気持ち」を表しているのです。その影響でしょうか、近頃子どもたちの行動の中にやさしさや気配りを感じるが増えています。

授業中の作業がはかどらず、落ち込んでいる友達に「大丈夫？手伝うよ。」と声をかける4年生。給食の準備に手間取っている友達の机を整理してくれた2年生。学年間を超えた教え合いがいつもできる5組・6組。友達が机から落とした物を当たり前のように拾ってあげる3年生。登校途中に転んで、けがをしてしまった子を保健室まで連れて行ってくれた5年生。なかよしタイムやむさまるアワーで、1年生に寄り添って教室を案内し、楽しく活動させてくれる6年生とそのお礼をしっかりとと言える1年生…。



開校50周年を祝うために生まれてきた「むさまる」。誕生日は毎月10月8日です。

誰もが多くの制約の中で生活を続けています。そのストレスを他者に向けるのではなく、自分が感じた苦しさやつらさから人の痛みを思うこともできるはず。今、子どもたちは、そのことを各ご家庭や地域の皆様、学級の友達などから学んでいます。周囲のよい影響を受け、子どもたちの心にやさしい気持ちが育まれているように思えて仕方ありません。

それは「人が人として生きることだ」、埼玉生まれの宮澤章二さんの詩が思い出されます。

行為の意味
宮澤 章二

— あなたの「こころ」はどんな形ですか
と ひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも「こころ」は見えない
けれど ほんとうに見えないのであろうか
確かに「こころ」はだれにも見えない
けれど「こころ」づかい「こころ」は見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから
同じように胸の中の「思い」は見えない
けれど「思い」やり「はだれ」にも見える
それも人に対する積極的な行為だから
あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為になるとき
「心」も「思い」も 初めて美しく生きる
— それは 人が人として生きることだ

やさしい行為が見えたとき、その尊さを子どもに伝えることが大切に思います。私たち周りの大人が子どもたちの行いを認め、価値づけてあげることで、子どもたちの心はさらに大きく豊かになるのでしょう。

ほめて認めて、叱って諭し、また、ほめて伸ばす